

平成22年度 文学部シラバス

授業科目の区分	専門科目						
【H18-22年度入学者】 講義番号	012100	授業科目(18-22)	心理学講義	配当年次(18-22)	2~4	重複履修の可否(18-22)	可
【H16,17年度入学者】 講義番号	012100	授業科目(16,17)	心理学講義	配当年次(16,17)	2~4	重複履修の可否(16,17)	可
講義題目	行動分析学概論						
学期	前期	曜日	火	時限	2	単位数(16-22)	2
他学部学生の履修	可						
担当教員	長谷川 芳典						
電話番号	086-251-7402						
Eメールアドレス	http://www.okayama-u.ac.jp/user/hasep/mail.html 参照						
オフィスアワー	水曜2限目（Eメールで予約をとる場合は、 http://www.okayama-u.ac.jp/user/hasep/mail.html を参照）						
授業の概要	行動分析学の基本的な考え方を、教科書に基づいて体系的に解説する。全28章を原則として毎回2章ずつのペースで進む。日常生活、教育、福祉、経済等の諸事例も豊富に取り入れる。						
学習目標	行動分析学の基本概念を理解し、それに基づいて日常生活の諸問題を主体的に改善できるようになること、またこの分野の最新の研究を理解し、卒論研究等に反映させられるようになることを目標とする。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学研究における行動分析学的方法の特色／第1章好子／第2章好子出現による強化 2 第3章嫌子消失による強化／第4章嫌子出現による弱化 3 第5章好子消失による弱化／第6章消去と復帰 4 第7章分化強化と分化弱化／第8章シェイピング 5 第9章強化スケジュール／第10章生得性好子と生得性嫌子 6 第11章特殊な確立操作／第12章習得性好子と習得性嫌子 7 第13章刺激弁別／第14章刺激般化と概念形成 8 第15章模倣／第16章阻止による強化 9 第17章阻止による弱化／第18章並立随伴性 10 第19章刺激反応連鎖と反応率随伴性／第20章レスポナント条件づけ 11 第21章言語行動／第22章強化モドキ 12 第23章ルール支配行動の理論／第24章ペイ・フォー・パフォーマンス 13 第25章道徳と法による行動の制御／第26章行動の維持 14 第27章行動の転移／第28章研究法 15 まとめ／授業評価アンケート 						
受講要件	特になし。						
教科書	杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・R. マロット・M. マロット(1998). 『行動分析学入門』産業図書. ISBN4782890303. (生協扱い)						
参考書等	授業専用サイト http://www.okayama-u.ac.jp/user/hasep/ で適宜紹介する						
成績評価	シャトルカード記入50点、 持込不可の小テストを授業中に3回程度実施する、合計50点。 遅刻は減点。従って、欠席・遅刻は重大なマイナス要因になる。						
研究活動との関連	担当者は心理学領域・行動分析学の研究をしている。						
コメント	<p>【認定心理士D】 この講義題目の授業は2～3年に一度の割合で開講される。</p> <p>前期木曜2限には、教養教育主題科目（人間と社会）として「行動分析学入門（講義番号911209）が開講される（但し、学部・学年によるグループ指定あり）。内容は一部重複するが、受講資格のある方が両科目を受講することは差し支えない。</p>						